

令和5年度学校評価表

栃木県立那須清峰高等学校

教 育 目 標		SpecialistとしてのSpirit・Sense・Mannerを有する技術者の養成		
本年度の努力点		(1) 学習環境を整えるとともに、学習習慣を定着させ、生徒の学力向上に努める。 (2) 基本的な生活習慣を確立させ、相手を思いやる豊かな人間性の育成に努める。 (3) 特色化・魅力化を推進し、地域から信頼される学校づくりに努める。 (4) 部活動及び特別活動を充実させ、健全な心身の育成に努める。 (5) キャリア教育の視点を踏まえた体系的な進路指導の充実に努める。		
評 価 基 準		十分満足できる・・・A 概ね満足できる・・・B 努力を要する・・・C 一層努力を要する・・・D		
評 価 項 目		①学校運営 ②学習指導 ③生徒指導 ④進路指導 ⑤特別活動 ⑥読書指導 ⑦健康指導 ⑧施設設備の安全管理 ⑨家庭地域との連携 ⑩情報化推進 ⑪工業教育 ⑫商業教育		
評価項目	重点目標	具 体 的 取 組	評価	次年度の課題とその対応策
学習指導② (学習指導部)	1 真剣に授業に取り組む態度を育成し、基礎学力の定着を図る。	1 「チャイム to チャイム」の実践により、時間を守って積極的に授業に参加する態度を育成する。 ○学校評価（生徒・職員）において「始業チャイムとともに授業を開始している」の回答が、 A；90%以上 B；85%以上 C；80%以上 D；80%未満	B	生徒の評価と教員の評価の間に10ポイントほどの開きがある。教師側の、授業最優先の意識の向上が必要である。
	2 学習意欲をかきたて、自ら学習する態度や習慣を育てる。	2 家庭での学習習慣の形成の定着を図り、定期試験に臨む意欲や意識を高め、1・2学期末の欠点数を減少させる。 ○1・2学期末の欠点数が総数の A；1%未満 B；3%未満 C；5%未満 D；5%以上	A	保護者召喚を伴う特別指導がなく、結果は良好であった。さらに欠点数を減らす指導を続けていきたい。
工業教育⑪ 商業教育⑫ (専門部)	3 生徒が所属する学科の基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせる。	3 専門性を高めるための資格に対して、取得のために真剣に取り組む姿勢および家庭学習の習慣化を図るなど、主体的な学習態度を育成する。（技能検定、情報技術検定、測量士補、2級施工管理技術検定、第二種電気工事士、パソコン利用技術検定、全商協会検定1級3種目以上等） ○検定や資格の取得率が A；前年より20%以上向上した B；前年と同様であった C；前年より20%程度低下した D；前年より30%以上低下した	B	合格率に関しては例年並みであるが、取得人数で考えると、減少傾向にある。原因は、受験料の値上げが、あげられる。
	4 各種大会や上級資格に積極的な取り組みをさせる。	4 各種大会での上位入賞や上級資格取得のため、地域産業界の人材を活用する。 ○地域産業界の人材活用が A；前年より増加した B；前年と同様であった C；前年より低下した D；まったく活用できなかった	A	例年並みではあるが、学科の特性があり、建設工学科及び商業科は、特に積極的に取り組んでいた。

評価項目	重点目標	具 体 的 取 組	評価	次年度の課題とその対応策
	5 キャリア教育を充実し、地域社会の発展に寄与できる人材を育成する。	5 インターンシップ事業やキャリア形成支援事業等をとおして、社会人としてのマナーと主体性、実行力、コミュニケーション能力の向上を図る。 ○生徒アンケートの「社会人として必要なマナーや能力」に関して、「あてはまる」「だいたいあてはまる」が、 A ; 90%以上 B ; 85%以上 C ; 80%以上 D ; 80%未満	A	今年度は、97.0%と前年度より向上した。 インターンシップにおいては例年より生徒数が約40人少なく事業所の要望に応えられなかった。
読書指導 ⑥ (学習指導部 図書管理係)	6 図書館及び図書利用の活発化を図る。	6 図書委員会で「図書館だより」を発行するなど、広報活動を充実させ、図書館利用の推進を図る。 ○図書館利用の生徒・教科・クラスが A ; 昨年より多くなった。 B ; 昨年と同程度であった。 C ; 昨年よりやや減少した。 D ; 昨年より大幅に減少した。	B	おおむね例年通りの利用状況であった。 これからも読書をするよう呼び掛けていきたい。
情報化推進 ⑩ (教務部 スキルアップ係)	7 情報機器を活用した授業の推進を図る。	7 教職員対象のスキルアップ研修を計画し、実施する。 A ; 年間6回以上実施した。 B ; 年間4回以上実施した。 C ; 年間2回以上実施した。 D ; 年間1回以下実施した。	B	先生方に支援できる研修内容だったと思う。 次年度は、回数よりも支援や役立つ内容を提供していきたい。
生活指導③ (生徒指導部)	8 学校生活への適応と基本的生活習慣の確立のため指導の充実に努める。	8 教師が率先して挨拶を行い、生徒が学校生活の多くの場面で積極的に挨拶ができるように指導する。 ○生徒アンケート「言葉遣いや礼儀などマナーの定着度」に関する結果から 「あてはまる」「だいたいあてはまる」が A ; 90%以上 B ; 85%以上 C ; 80%以上 D ; 80%未満	A	生徒、保護者の回答は、評価Aであった。 次年度は、欠席や遅刻に関して強化していきたい。
	9 交通安全教育の充実及び指導強化を図る。	9 H R 活動・特別活動を通じて交通安全教育を実施し、交通マナーの向上を目指す。 ○重大な交通事故発生件数が昨年度より A ; 大幅に減少した B ; 多少減少した C ; 同程度だった D ; 増加した	B	事故発生件数は多少減少した。今後も街頭指導や集会等で交通マナーについて啓発していきたい。
健康指導 ⑦ (学校安全部 健康指導係)	10 自己の健康状態に関心を持ち、自ら適正な健康管理ができる姿勢を育む。	10 保健室利用者への個別指導および教科での安全な活動を行うための指導を充実させ、個々の怪我の防止に努め、生徒の自己管理能力を高める。 自己管理の意識が向上し、保健室利用者数(外科)が昨年より A ; 大幅に減少した(-15%以上) B ; 多少減少した(-10%以上) C ; 同程度だった D ; 増加した(+10%以上)	A	安全管理や生徒自身の自己管理能力の向上により、目標を達成できた。引き続き指導を行うとともに、適切な利用を促していきたい。

評価項目	重点目標	具 体 的 取 組	評価	次年度の課題とその対応策
施設設備の安全管理⑧ (学校安全部 施設備品係)	11 省エネルギーを 実践する姿勢を育成し、 職員・生徒の主体的 省エネ行動を推進する。	11 不要な照明の消灯、 冷暖房温度の適正維持等 を職員、生徒が実践することにより、 消費電力を削減する。 ○昨年度の消費電力量より A ; 1.0%以上削減できた。 B ; 現状を維持することができた。 C ; +1.0%以上増加した。 D ; 大幅に増加した。	B	昨年度に比べ、 今年度は概ね現状を維持 することができたが、7月の 使用量が多くなっており、 対策を考えたい。
進路指導④ (進路指導部)	12 組織的な進路指導を 推進し、望ましい勤労観・ 職業観を育成するとともに、 主体的な進路選択のための 指導・援助に努める。	12 進路指導部・各担任・ 各学科・各教科等が連携し、 個別指導を重視した進路指導に 取り組む。 ○連携した指導及び個別指導を 重視した指導に取り組み、 希望進路実現率(第一希望)が、 A ; 進路実現率 90%以上であった。 B ; 進路実現率 85%以上であった。 C ; 進路実現率 80%以上であった。 D ; 進路実現率 80%未満であった。	A	応募前職場見学の扱いについて、 できるだけ多くの企業の要 望に応えられるよう検討した い。
特別活動⑤ (特別活動部)	13 部活動の加入・定着を 促し活性化に努める。	13 部活動を知・徳・体の バランスのとれた「生きる力」 を育むための重要な機会と とらえ、部活動紹介や広報活 動などを活発にし、定着率の アップを図る。 ○1年生の年度末に部活動定 着率が、 A ; 7割以上 B ; 6割以上 C ; 5割以上 D ; 5割未満	A	本年度は1学年の部活動は 強制加入にしながら、定着率 が8割を超えた。また、加入 率を上げるため、中学生対象 の部活動見学会を実施した。 今後も加入率・継続率を高め るため、継続して行う予定で ある。
学校運営① (教務部)	14 授業と行事の総合的 バランスをとることに努める。	14 学習指導部、特別活動部 と連携し年間行事予定と特活・ LHRの調整を図り、授業時数 の均等化に努める。 A ; 授業時数の均等化が図れた。 B ; 2/3の学期で均等化が図れた。 C ; 2/3の学期で均等化が図れ なかった。 D ; 全学期で均等化が図れな かった。	B	各部と連携し授業時数の均 等化が図れた。しかし、3学 期は、曜日によって1~2回 程度の差が生じてしまった。
学校運営① (学年部)	15 学年間の連携強化に 努める。	15 学年間(学年主任間)の 連携を密にし、学年間の共通 理解を図る。 A ; 随時連携し、十分共通理 解が図れた。 B ; 学期毎に打合せを行い、 共通理解が図れた。 C ; 年間を通して、学年主任 間で数回打合せを行い、共通 理解が図れた。 D ; 学年間の共通理解が不 十分であった。	C	LHR計画など、都度話し合 いをすることができた。生徒 指導関係においてはズレが生 じないように話し合いをこま めに実施すればよかったと反 省している。

評価項目	重点目標	具 体 的 取 組	評価	次年度の課題とその対応策
家庭地域との連携⑨ (渉外部)	16 P T Aとの連携を強化し、P T A活動の活性化に努める。	16 P T A各行事の運営について改善を図り、保護者の参加率を高める。 A ; 大幅に増加した。 B ; やや増加した。 C ; 変わらなかった。 D ; 減少した。	C	行事の見直しの一部なされたが、参加率の増加には至らなかった。次年度も継続して役員と運営について協議し改善を図りたい。
いじめ防止対策③ (生徒指導部)	17 いじめの早期発見、いじめの再発を防止するための取組を強化する。	17 生徒との面談やアンケートを通していじめの早期発見や解決を図る。 A ; 各機関と連携を図り十分に対応ができた。 B ; 各機関と連携を図り対応ができた。 C ; 概ね対応ができたが、継続指導中。 D ; 十分な対応ができなかった。	B	今年度よりスクールソーシャルワーカーが県配置になったが、連携が不十分であった。次年度は活用について協議し連携を強化していきたい。